

## 平成 27 年度 第 2 回南魚沼版 CCRC 推進協議会 議事録

作成： 南魚沼市企画政策課

期日	平成 27 年 8 月 17 日（月）午後 3 時 00 分から
会場	南魚沼市役所 大和庁舎 3 階 大会議室
参加者	南魚沼版 CCRC 推進協議会委員（50 音順） 岩井康則委員、岩佐十良委員、江口昌志委員、門山好和会長、 木村かすみ委員、小林昌子委員、関聡副会長、高橋和子委員、武井大貴委員、 塚野裕之委員、樋口昌敏委員（代理：石原和彦氏）、藤ノ木靖子委員、 松田友治委員、湯澤尚史委員、渡辺裕委員（代理：阿部徳義氏） 以上 15 名 アドバイザー 新潟県産業労働観光部 参与 河合雅樹 様 事務局：清水明企画政策課長
開会挨拶 （門山会長）	前回の第 1 回会議では、「CCRC について」と「今後の推進方針」についてご協議いただいたが、今回は特に 10 月予定の「お試し居住」などについて協議願いたい。これから、第 2 回南魚沼版 CCRC 推進会議を開会いたします。
委員委嘱	前回会議後に西野仁委員から委員辞退申出があり、後任として江口昌志委員を平成 27 年 8 月 1 日付けで委嘱した。（任期は平成 28 年 3 月 31 日） （新任の江口委員及び前回欠席の岩佐委員、木村委員を紹介）
協議 ①前回会議後の状況報告	資料 1-1、資料 1-2、資料 1-3 により清水企画政策課長が説明 （説明記載省略、質疑なし）
②「お試し居住」の募集要項について  （質疑等） 木村委員	資料 2 によりメニュー企画構成に協力いただいた小林委員が体験内容など全体について説明 （説明記載省略） 資料 3 により清水企画政策課長が募集要項の内容考え方について説明 （説明記載省略）  NHK の放送後に反応のあった方以外にどのように募集をかけるのか？
清水課長	ホームページに掲載している。反応のあった方々はホームページで情報収集している。メールアドレスをいただいた方には直接メールする。 国際大学との連携でのあり、貿易関連会社の OB の皆さんが登録している NPO でも協力いただけることになっている。手を広げ過ぎて、いっぱい申し込まれても対応できないので、対象を絞り込んで進めたい。
江口委員	10 人程度であれば南魚沼の状況中心になるが、特に、雪の中の生活などネガティブな部分をどのように伝えるのが重要。 「住む」ということに関する買い物や道路状況、交通手段などの報提供を入れたほうが良い。
清水課長	市民の皆様との交流、懇談の機会を多く入れているので、その中でネガティブな部分も伝えていただくこととなる。この地域の CCRC は、克雪・利雪が大きなテーマであり、問い合わせ内容もその点が非常に多い。課題はその解決策なども示しながら説明するようこととなる。 「どこに住むのか」「買い物はどうか」といった点も問い合わせいただいている。住む場所も問い合わせをいただいている。オリエンテーションで資料提供などしていきたい。
岩井委員	200 戸 400 人の目標値があるので夫婦での移住が重点となると思う。夫婦で参加し

<p><u>清水課長</u></p>	<p>やすいような工夫はあるか？ 全体的に観光アピールの部分が中心だが、日常的な部分はどうにするのか？</p> <p>夫婦に限定はしない。ご都合もあってご夫婦での移住であってもお試し居住には1人でというケースもある。10部屋要るようでも困るが限定するものではない。 日常的な部分は、最終日にフリーの時間を取っている。情報提供する中でそれぞれ確認していただく。こちらに来る交通手段も自家用車が想定されるので、工夫いただけると思う。</p>
<p><u>河合アドバイザー</u></p>	<p>生活情報の特にネガティブな部分については、客観的な正しい情報を提供することが重要。「雪」を例にしても、首都圏には豪雪災害の情報しか伝わっていない。こと地域の除雪体制の整備状況なども伝えるべき。「孤立することはほとんどなく、首都圏よりも復旧も早い。」ことを正しく伝え、誤解をなくする。 お試し居住の内容は大変魅力的。アンケートの実施などマーケティングに必要な部分も明記されており、この案に賛成。 確認としては、主催者の明記は？建て付け上は旅行商品なのか？</p>
<p><u>清水課長</u></p>	<p>旅行商品にあたる可能性もあるので、こうした形式としている。旅行業の許可のあるところに委託する。事業主体は市、募集は旅行者となる。</p>
<p><u>武井委員</u></p>	<p>オリエンテーションの中で、現段階の南魚沼版 CCRC の検討状況を伝えるべき。 1週間の長期にわたるので、アンケートは最後にとらず、印象や記憶の新しいうちに日々少しずつでも情報としていただく形はどうか？</p>
<p><u>清水課長</u></p>	<p>参考に進めさせていただく。</p>
<p><u>渡辺委員代理 (阿部氏)</u></p>	<p>南魚沼市としてどういうサポートができるのかが欠落しているのではないか。特に元気なうちに来るが、安心して介護や医療を受けられるのかが大きなテーマの一つである。 自然資産がたくさん盛り込まれ、これを全部消化するのは大変と思う。 「自家用車」での参加により、ここを拠点として活動範囲を拡げていただくことはどうか？</p>
<p><u>清水課長</u></p>	<p>想定されるサポート体制は説明できるが、具体的な詳細は参加者からのご意見を取り入れながら磨き上げる形となる。 限られた一週間の中に、ゆとりを持った形、詰め込み過ぎない形で検討してきた。今年度2回、次年度4回を計画しているが、四季折々の一番いいものを入れて良いものにしていきたい。 拠点として、周辺地域についても十分な情報提供に努めたい。</p>
<p><u>門山委員長</u></p>	<p>早めに一日フリーがあった方が良い。レンタカー、レンタサイクルなどで自由に興味のあるところに動いていただき、良いところ不便なところなど、その感想を意見交換できるようにしたらどうか？ (前回の役員打合せで) どなたかライターに同行いただき、情報発信するのはどうかという提案をいただいたが、いれてみてはどうか？</p>
<p><u>清水課長</u></p>	<p>内諾を得ている方もいて、スケジュール調整も進んでいる。可能な限り対応したい。 ライターは、市内で頑張っている方がいるので、その方をお願いしてみたい。</p>

木村委員	この地域は良いところがたくさんあるので、自分で試行錯誤しながら車で動いてみて、発見いただくことも良いのでは？
清水課長	今回は手配も進んでいるので大きな変更は難しい。次回の検討事項としたい。自家用車で来ていただくことは検討したい。
河合アドバイザー	首都圏在住者の生活様式は多様と言える。半数は地方出身者で、地方の生活も知っている。公共交通が発達しているが、地方の現実を知っていただくことも大切。 (アドバイスとして)
③構想の策定、調査業務などについて	資料4により清水課長が10月に追加交付される対象事業の計画について説明。 (説明記載省略)
門山会長  (質疑等)	専門部会で検討し協議会で共有協議する形を提案させていただいた。部会員構成も事務局案を提案させていただいたがどうか？
渡辺委員代理 (阿部氏)	情報発信の部分は、交流促進と事業化促進の共通になる。事業化の検討には情報発信は大変重要な要素となる。波及効果の点でも重要。 国際会議、うおぬま会議なども情報発信が重要となる。
清水課長	移住者への期待や移住条件の設定など、移住促進部会との関連も考えられる。各部会で検討いただいたことを、協議会で他の部会とも共有することとなる。
門山会長	これで確定ではない。試行錯誤しながら、改善を加えながら進めていきたい。次回の9月29日までは、1-2回の検討をお願いしたい。
塚野委員	部会での検討は、どういうスケジュール感で進めるものか？
清水課長	以前お示したスケジュール表では部会の設定は想定されていない。推進協議会の会議の前に部会での検討を想定している。 国の有識者会議での検討の情報も見据えながら進めたい。現時点では、細かなスケジュールまでは組んでいない。
武井委員	広報活動において、南魚沼版 CCRC は市のホームページの中でも下の階層にある。トップページへのバナー設置など、すぐにたどり着くように工夫したほうが良い。 広範囲にわたる交付金対象事業を進めるにあたって、専任の人員配置も含め体制整備も必要だがどうか？
清水課長	ホームページは工夫したい。 移住促進及び交流促進の分野は、事務局体制の整備を検討している。職員の人件費は対象とならないので、臨時職員として、将来も引き続き従事いただける人材を確保していきたいと考えている。
塚野委員	事業化促進の部分は、建物やサービスなど具体的に落とし込む必要があり、かなり手間もかかり、委員だけでは対応できない。委託などは対象となるのか。
清水課長	外部への委託は対象となるので、絞り込んで活用していきたい。
高橋委員	連携促進の中で、国際大学の学生と移住者の交流プログラムや移住者向けの講座

<p><u>清水課長</u></p>	<p>開発などがあるが、移住される方をいつまで「お客様」扱いするのか？ 開発したプログラムは、この交付金の間だけの実施となるのか？</p> <p>お試し居住では、参加者として体験いただくこととなる（いわゆる「お客様」）が、移住後は、ボランティアとして参加いただく契機を提供するもので、活動の場の紹介などは継続的に実施することとなる。 この交付金の活用期間内は、その開発をすることとなる。</p>
<p><u>武井委員</u></p>	<p>移住者は、移住後は市民として、開発されたプログラムの中で、（先住の）皆さんと一緒に維持拡大していただければ、大学としては大いに有難い。 新しいボランティア団体ができていくことも考えられるが、ここでは、既存の団体の活動の中に参加いただくことを方向性として持っている。</p>
<p><u>門山会長</u></p>	<p>「いつまでお客様」という視点は大変重要だ。移住後は「市民」となる。先住の皆さんといかに連携して協働できる環境を作るかという点で進めて行ければと考える。</p>
<p><u>岩佐委員</u></p>	<p>この CCRC にとっての「マーケティング」は、「どんな人に来ていただいて、どんな人に PR して、どんな人に来てもらうか」が一番重要。 所得や趣味趣向から検討することが通常だが、来てほしい方へのアンケートと来た方へのアンケートでは結果が全然違ってくる。 2 回目以降回数を重ねながら、検討修正は可能なのか？この部会で提案できるのか？</p>
<p><u>清水課長</u></p>	<p>募集の段階で興味のある方と来ていただきたい方の両方の情報が集まる。情報提供とその反応によりニーズが把握して行けるのではないかと考えているが、具体的な実施方針ももっとも効果的な方法をこの部会の中で検討提案いただきたい。</p>
<p><u>湯澤委員</u></p>	<p>事業化の検討には、事業規模がわからないと現実的具体的な検討が難しい。持続可能な事業となるのか大変重要な課題となる。 どういったスケジュールで、どういったステージで議論するのかがわかったうえで、専門部会で検討できる。</p>
<p><u>清水課長</u></p>	<p>事業化検討部会には、そのベースとなる部分（事業規模）を検討いただきたい。 仮定を重ねながらベースとなるものを作り、それに対して事業者の皆さんが事業化の検討を行うこととなる。事業実施は、民間事業者次第となる。</p>
<p><u>渡辺委員代理</u> <u>（阿部氏）</u></p>	<p>健康ビジネス協議会としても、CCRC に関連してどうビジネスを構築していくかを検討するうえで、事業母体がどこになるのか、規模がどうなるのかで大きく変わってくる。移住者だけを考えるか、移住者含めた南魚沼市全体を考えるのかも重要な要素となる。 健康ビジネス協議会の中でも協議を進め、自立者、要介護、移動、生き甲斐の 4 つのテーマで検討している。 アイデアはあるが、姿が見えず提案できない状況である。今後もこの会議に参加し、精度を高めていきたい。</p>
<p><u>清水課長</u></p>	<p>事業者との接触もあるが、今現在、ここで発表できる段階にない。ここでは、仮定の上にベースとなるものを策定し、その中に基本的な必須事項を盛り込んで、事業者側からの提案を受け、選定する形を想定している。 選定にあたっては、当然にこの CCRC のコンセプトに沿って行うことになる。</p>

<p><u>河合アドバイザー</u></p>	<p>事務局の言うとおりの現時点で南魚沼版 CCRC は、事業の枠組みや中核となる事業母体は決まっていない。  今後示される基本構想の中でいくつか案も出てくるものと認識している。  明らかなのは民間事業であり、第3セクターや市の直営での事業ではない。  いかに有能なプランやプレーヤーを引き込むが重要になってくる。</p>
<p><u>門山会長</u></p>	<p>民間に丸投げではなく、南魚沼にあった CCRC の形をこの場で検討し、ベースに表していくことになる。  市民も移住者も喜ぶような枠組みにしていきたい。細かな採算ベースも大切だが、その先は、事業者にお任せすることとなる。</p>
<p><u>湯澤委員</u></p>	<p>部会での検討に必要なので、早めに示していただきたい。</p>
<p><u>門山会長</u></p>	<p>早々に構想をお示しできるようにしたい。</p>
<p><u>武井委員</u></p>	<p>CCRC が通常の「移住」と違う点を明確にすべき。  総合戦略との関連や南魚沼市の“まちづくり”にどういう風につなげるのか、この会で検討すべきと認識している。  大学としては、他の教育機関や地域の団体なども含め、地域全体の連携の中で検討して進めていきたい。移住者とも、一緒に考える部分でもあり、そうしたことを事業者にも示していくものと考えている。</p>
<p>④その他 (1)  <u>樋口委員代理</u>  <u>(石原氏)</u></p> <p><u>渡辺委員代理</u>  <u>(阿部氏)</u></p>	<p>「南魚沼版 CCRC 構想の展開における北里大学保健衛生専門学院の関わりについて」により説明。  (説明内容記載省略)</p> <p>世界で一番教育が進んでいるのは、フィンランドかスウェーデン、スイス、シンガポール、香港だが、大学の中に留まらず、一般社会や企業に出て実践を積んでまた大学の中に入るといっている。ここの CCRC の移住者に限定せず展開してほしい。</p>
<p>④その他 (2)  <u>河合アドバイザー</u></p>	<p>「南魚沼市 CCRC への指定提案 若者の雇用創造のための枠組み」により説明  (説明内容記載省略)</p>
<p>④その他 (3)</p>	<p>(「移住検討者の問合せ等の状況」は、時間の関係で説明は省略し、資料配布のみとなった。)</p>
<p>閉会挨拶  (関副会長)</p>	<p>部会制の提案があった。幅広い分野から意識の高い皆さんからお集まりいただいている。時間が無い中での協議といった状況だが、可能な限り議論していただきたい。  南魚沼の地方創生の一助として、南魚沼版 CCRC の実現に向け今後も運営していきたいので、ご協力をお願いしたい。</p> <p>(終了 17 : 30)</p>